

令和4年度 天神保育園 自己点検総括表

○運営管理

今年度はノートパソコンを7台購入し、クラス担当保育士各1台の環境を整え、園児個人記録や指導計画・要録作成業務等園のICT化促進により業務省力化を図り、また保育総合システムの導入により登降園システムや保護者との保育の共有を図りました。

○安全・危機管理

いまだ収束しないコロナ感染症の中、保育現場でも感染症対策の強化に努めました。保護者家族も含め、散発的な発症事例はありましたが、幸いにも園内でクラスターは発生しませんでした。

○保育環境

乳児幼児とも安全で快適な保育環境を整え、「見守る保育」の特色である間仕切りのないゾーン空間を意識して多様なゾーンの構築に努めました。また園庭では、芝生のゾーン、どろ遊びのゾーン、水流れのゾーンで様々な活動を行いました。

○保育内容

今年度も保育ドキュメンテーションを作成して園児一人ひとりの発達を見守り、また新たにプロジェクト保育を導入して、保育士主導ではなく園児が主体となり保育が様々に展開していく保育の取組を行いました。また、プロジェクト保育の中に”STEM保育”も少しずつ導入していきました。

○食育

園の畑に季節の野菜などを栽培して、子どもたちと一緒に育てたが保育士主体となる活動となってしまう、次年度はもう少し内容を深めていきたい。

○子育て支援・地域交流

今まで実施していた子育て支援事業「なかよし広場」の参加者がコロナの影響で伸び悩んでいたため、内容をリニューアルして「Caféてんじん」としておこない、参加者も次第に増えてきた。次年度も様々な機会を利用してPRしていきたい。

天神保育園事故点検表（令和4年度）

運営管理

1	保育理念・基本方針を職員や保護者などに周知するために見やすい場所に掲示している	A・B・C・D・E
2	定期的な職員会議等を通して職員の資質向上、業務効率化や改善等に努めている	A・B・C・D・E
3	園長や主任・職員の役割分担と責任が明確にされ、園児や保護者への迅速な対応ができる体制がある	A・B・C・D・E

守秘義務

1	園児の個人記録は個人情報保護法に基づいて管理・保管している	A・B・C・D・E
2	園内で知り得た事柄について守秘義務を徹底している	A・B・C・D・E

安全・危機管理

1	事故災害時のマニュアルがあり、職員がすぐに見ることができる場所にある	A・B・C・D・E
2	外部からの侵入者に対し対応策がなされ訓練が行われている	A・B・C・D・E
3	緊急時のために医療機関等の連絡先が明示されている	A・B・C・D・E
4	園内の施設設備・遊具等の安全点検は定期的を実施している	A・B・C・D・E

保育環境

1	保育環境を常に清潔に保ち、美観を大切に心地よい環境で保育ができるように努めている	A・B・C・D・E
2	室内の温度、湿度、換気、照明等は園児の活動に合わせて配慮している	A・B・C・D・E
3	季節の草花等を飾り、保育の中で園児が季節感を感じるような配慮を行っている	A・B・C・D・E
4	屋外での活動の場があり、園児が安全に活動しやすい環境を整えている	A・B・C・D・E

健康管理・衛生

1	園児の健康診断は定期的を実施され、その結果は職員や保護者に伝達され保育に反映させている	A・B・C・D・E
2	日々の園児の健康状態を観察し、一人ひとりの体調に合わせた保育を心掛けている	A・B・C・D・E
3	玩具、遊具等については、常に衛生的に保持している	A・B・C・D・E
4	SIDS（乳児突然死症候群）や感染症等の予防やマニュアルが用意されている	A・B・C・D・E

保育内容

1	全ての園児について、一人ひとりの最善の利益とその人格を尊重している	A・B・C・D・E
2	園児に分かりやすい温かな言葉づかいで穏やかに話をしている	A・B・C・D・E
3	基本的な生活習慣は園児の発達を考慮し、家庭と連携して状況に応じて対応している	A・B・C・D・E
4	園児の発達に応じた玩具や遊具を質・量ともに適切に用意している	A・B・C・D・E
5	身近な自然に触れる機会を用意し、季節感や豊かな感性を育む配慮をしている	A・B・C・D・E
6	園児同士の関りで、順番を守るなどの社会的ルールを身につける配慮をしている	A・B・C・D・E

食育

1	旬のものや季節感のある食材を用意し、食文化を伝える工夫をしている	A・B・C・D・E
2	園児の発達に応じ食事の介助を行い、落ち着いた環境で和やかに楽しく食事ができる環境がある	A・B・C・D・E
3	毎月の献立は保護者に示され、毎日の食事の状況を保護者に知らせている	A・B・C・D・E
4	食物アレルギーのある園児は、調理師と職員で密に連絡を取り除去食等で対応している	A・B・C・D・E

子育て支援・地域交流

1	園児の送迎時に園時の様子を保護者に伝えている	A・B・C・D・E
2	虐待の早期発見に努めている	A・B・C・D・E
3	ファミリーデーを設け、保護者に保育を理解してもらう工夫をしている	A・B・C・D・E
4	中高生の職場体験や実習生の受け入れ体制について、その意義や方針を全員が理解している	A・B・C・D・E

評 価

- A…理想的な状態、達成できている状態
- B…達成間近、取り組みなどを頑張っている状態
- C…通常普通に行われている状態
- D…頑張って取り組まなければいけない状態
- E…ほとんど達成できていない状態

自己評価診断チェック表

総合評価：A 良い (3.8～5.0) ・ B 普通 (2.6～3.8) C 改善が必要 (1～2.6)

項目	内容	平均評価	総合評価	備考等
計画の作成	計画は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育指針などの趣旨を捉えて作成している。	3.1	B	
	計画は、園の理念、保育の方針や目標に基づいて作成している。	3.6	B	
	計画は、子どもの発達過程、子どもの過程の状況や保育時間等を考慮して作成している。	4.0	A	
	計画は、保育に関わる職員が参画して作成している。	4.3	A	
	計画は、定期的に評価を行い、次の作成に生かしている。	3.7	B	
環境を通して行う保育・養護と教育の一体的展開	室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境は、常に適切な状態に保持している。	4.0	A	
	園内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。	3.8	B	
	家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。	3.3	B	
	一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。	2.9	B	
	食事や睡眠のための心地よい生活環境が確保されている。	3.7	B	
	手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。	4.1	A	
	子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。	3.7	B	
	子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。	4.1	A	
	自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。	4.0	A	
	子どもの欲求を受け止め、子どもの気持ちにそって適切に対応している。	3.7	B	
	子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。	4.0	A	
	せかず言葉や静止させる言葉を不用意に用いないようにしている。	3.7	B	
	一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身に付けられるように配慮している。	3.4	B	
	基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。	3.2	B	
	基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。	3.6	B	
一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。	3.9	A		
基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。	3.6	B		
子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。	3.5	B		
子どもが自発性を発揮できるよう援助している。	3.3	B		

項目	内容	平均評価	総合評価	意見改善策
環境を通して行う保育・養護と教育の一体的展開	遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。	3.9	A	
	戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。	4.2	A	
	生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。	3.8	B	
	子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。	3.6	B	
	社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。	3.6	B	
	身近な自然と触れ合うことができるよう工夫している。	3.3	B	
	地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。	2.2	C	
	様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。	3.0	B	
	0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。	3.0	B	
	0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。	3.6	B	
	子どもの表情を大切に、応答的な関わりをしている。（0歳児）	4.1	A	
	0歳児が、興味と感心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。	2.8	B	
	0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。	3.6	B	
	0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。	3.3	B	
	適切な食事、排泄介助ができています。（0歳児）	4.1	A	
	一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分で使用とする気持ちを尊重している。（1・2歳児）	4.0	A	
	探索活動が十分に行えるような環境整備をしている。（1・2歳児）	3.0	B	
	子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。（1・2歳児）	3.5	B	
	子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関りをしている。（1・2歳児）	3.6	B	
	保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。（1・2歳児）	4.0	A	
	様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関りを図っている。（1・2歳児）	3.3	B	
	一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。（1・2歳児）	3.5	B	
	3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が	4.0	A	
	4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整	3.7	B	
5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取	4.0	A		
子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域等に伝える工夫や配慮がされている。	3.2	B		

項目	内容	平均評価	総合評価	意見改善策
環境を通して行う保育・養護と教育の一体的展開	建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。	2.9	B	
	障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。	2.7	B	
	計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。(障害)	1.4	C	
	子ども同士の関りに配慮し、共に共感できるようにしている。(障害)	2.7	B	
	保護者との連携を密にして、園での生活に配慮している。(障害)	2.7	B	
	必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。	2.9	B	
	職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。	3.3	B	
	1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。	3.2	B	
	家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。	3.4	B	
	子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。	3.4	B	
	年齢の異なる子どもが一緒に過ごすことに配慮している。	4.0	A	
	子どもの在園時間や生活リズムに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。	4.3	A	
	子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。	3.7	B	
保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。	3.7	B		
健康管理	子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。	3.4	B	
	子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。	3.9	A	
	子どもの保健に関する計画を作成している。	1.6	C	
	一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。	3.7	B	
	既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。	3.3	B	
	保護者に対し、園の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。	3.0	B	
	職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。	4.0	A	
	保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。	2.5	C	
	健康診断・歯科検診の結果が記録され、関係職員に周知されている。	3.5	B	
	健康診断・歯科検診の結果を保健に関する計画等に反映させ保育が行われている。	2.1	C	
	家庭での生活に生かされ、保育に反映されるよう、健康診断・歯科検診の結果を保護者に伝えている。	3.5	B	
アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対	4.3	A		

項目	内容	平均評価	総合評価	意見改善策
健康 管理	慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示の下、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。	3.3	B	
	保護者との連携を密にして、園での生活に配慮している。	4.0	A	
	食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。	4.0	A	
	他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を得るための取組を行っている。	3.0	B	
食 事	食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置付け取組を行っている。	3.3	B	
	子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。	3.7	B	
	子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。	3.9	A	
	食器の材質や形などに配慮している。	3.4	B	
	個人さや食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。	4.3	A	
	食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。	4.3	A	
	子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。	3.6	B	
	子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。	2.7	B	
	一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。	3.1	B	
	子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。	3.9	A	
	残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。	3.2	B	
	季節感のある献立となるように配慮している。	3.8	B	
	地域の食文化や行事食などを取り入れている。	3.8	B	
調理員が食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。	3.6	B		
衛生管理の体制を確立し、マニュアルに基づき衛生管理が適切に行われている。	4.0	A		
家 庭 と の 連 携	連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。	4.1	A	
	保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。	3.5	B	
	様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。	3.7	B	
	家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	3.5	B	
保 護 者 等 の 支 援	日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。	3.8	B	
	保護者等からの相談に応じる体制がある。	3.6	B	
	保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。	3.3	B	
	園の特性を生かした保護者への支援を行っている。	3.0	B	

項目	内容	平均評価	総合評価	意見改善策
保護者等の支援	相談内容を適切に記録している。	2.9	B	
	相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。	3.4	B	
	虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。	3.9	A	
	虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに園内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。	3.3	B	
	虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。	3.2	B	
	職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促す取組を行っている。	3.5	B	
	児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。	2.8	B	
	虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。	2.8	B	
保育実践の振り返り	保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返りを行っている。	3.6	B	
	自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。	3.3	B	
	保育士等の自己評価を、定期的に行っている。	2.5	C	
	保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。	3.5	B	
	保育士等の自己評価に基づき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。	3.4	B	
	保育士等の自己評価を、園全体の保育実践の自己評価につなげている。	3.3	B	

【評価できる事項】

【改善を要する事項】